

私だからこそ救える世界

岐阜市立本荘中学校 2年
渡辺 心音

Listen, all of you. I'm Kokone Watanabe. I graduated from Sunny side International school.

こんにちは。渡辺心音といいます。私は岐阜市にある、サニーサイド・インターナショナル・スクールという小学校を卒業しました。聞いたことありますか？

サニーサイドでの学習は、ちょっと変わっています。オールイングリッシュの授業もあります。それから、先生から出される様々な課題について討議し合い、解決策を考え、行動に移すのです。毎日、楽しんで、悩んで、前向きに生きる力をつけてきました。

このような経歴もあって、私は英語が大の得意。小学1年生から、ずっと楽しく頑張っています。英検2級まであと少しです。

この英語の力を将来に生かしたいと考えてはいるのですが、正直なところ、具体的な目標がありません。ぼんやりしています。「私って、何だろう。将来のことも考えられないなんて、今まで何をしてきたの?」……もやもやする日々が続きました。

ある日の授業で、国語の先生から、「国境なき医師団」というものを紹介していただきました。けれど「国境のない医師団って何? 聞いたことがない」と疑問しか生まれません。そこでネットを使って「国境なき医師団」の活動報告書を調べてみました。

国境なき医師団とは、世界中の紛争地域に行き、医療活動を中心に人々を救う団体なのでした。ミャンマーからバングラデシュに逃れたロヒンギャ難民、長年にわたり不安定な状況下に暮らすアフガニスタンの人々など、お忘れではありませんか。

国境なき医師団の活動地域は、こうした地域をはじめとして、なんと世界の74か国に及ぶのです。

衝撃でした。そんな危険な、紛争の絶えない、そして不衛生な地域に乗り込んで、自分の命を投げ打って人々を助ける人たちがいるなんて。

どの紛争地域にも、さまざまな役割の人たちが派遣されています。医療活動にはそれを実現するための基盤が必要で、だから医療スタッフ以外にも、さまざまな役割があります。例えば、南スーダンでは、外科医や麻酔科医、産婦人科医などに加えて、建築士やアドミニストレーターという耳慣れない役割の人まで活動しています。

さらに2022年の報告書を見ると、なんと「医療拠点が武力攻撃の対象になってきている」ということが分かりました。人を救いにいくのに自分の命が危険にさらされる。そんな状況下で、とにかく大勢の人々を助けているのです。その勇気と熱量はどこから来るの? 衝撃と尊敬、そして後悔に似た気持ちが生れました。

何しているんだろう、私。

戦争が続いていることはニュースでも知っているし、小さな命を救いたいと考えたことぐらいあります。けれどそこで思考は停止。頭の中をゆっくり動いて、でも結論はありません。何も行動できないままでした。

こんな私でいいの? 自分だけお腹いっぱい食べて、健康で、それで、世界の仲間たちを見捨てる自分でいるつもり? 後回しにしていい命なんてあるはずないのに。

渡辺心音は薄情者なの? ……。

私の命は、ここでこそ生かすべきだと考えました。私はまだ14歳。でも、こんな私だって、世界に貢献できるはず。ならばそのために、英語を日常会話レベル以上にしよう。そして、今からでもできる自分作りを实践するぞ。こんな決意が生まれました。

だから、このごろの私は、仲間へのちょっと強めの忠告も、明日の自分作りの課題として実践しています。もちろん、学年の取り組みにはスタッフとして参加しています。

幸せは、人と分かち合うことでのみ、実現できるもの。私はそう信じています。ただ喜び合うというだけじゃない。悲しいことも、つらいことも、互いに分かち合うこと。そうすることでこそ、本当の「幸せ」を得ることができる。そうではありませんか?

私は歩み出します。私だからこそ救える世界があるはず。お父さん、お母さん。見ていてください。